

市政記者各位

2025 年 2 月 7 日
福岡市博物館

いよいよ開催目前！

特別展「民藝 MINGEI ー美は暮らしのなかにある」を開催します

是非ご取材いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



約 100 年前に思想家・柳宗悦が説いた民衆的工藝、「民藝」。日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる、この「民藝」のコンセプトはいま改めて必要とされ、私たちの暮らしに身近なものとなりつつあります。

本展では、民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約 150 件を展示します。また、いまに続く民藝の産地を訪ね、そこで働く作り手と、受け継がれている手仕事も紹介します。

さらには、2022 年夏までセレクトショップ BEAMS のディレクターとして長く活躍し、現在の民藝ブームに大きな役割を果たしてきたテリー・エリス／北村恵子（MOGI Folk Art ディレクター）による、現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころのひとつです。
柳が説いた生活の中の美、民藝とは何か、そのひろがりや今、そしてこれからを展望する展覧会です。

開催概要 会期：2025 年 2 月 8 日（土）～4 月 6 日（日）

場 所：福岡市博物館 特別展示室

時 間：9 時 30 分～17 時 30 分（入館は 17 時まで）

観覧料：一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,200 円（1,000 円）、小中生 800 円（600 円）

（ ）内は 20 人以上の団体料金

見どころ紹介！

全国や海外の民藝だけではなく、九州地方の品々を展示予定



黒釉貼付牡丹文甕

薩摩・苗代川（鹿児島） 江戸時代 日本民藝館
苗代川の「黒もん」は、柳をはじめ民藝同人らが好み、本作は柳が絶賛した逸品。甘酒を貯める甕で、漆黒の胴に貼り付けた牡丹の花が可憐です。



いっちゃん行平

筑前野間（福岡） 1932 年頃 日本民藝館
褐色の横線の上を縦に流れる白色のいっちゃんがアクセントとなり、愛らしい。かつて福岡の野間周辺（現・福岡市南区皿山）には、台所用品、汽車土瓶などを盛んに作った窯場がありました。



鉛釉蓋壺

肥前白石（佐賀） 1932 年頃 日本民藝館
白石窯の鉛釉陶器は民藝運動で注目された焼物の一つで、赤味がかった胎土に鉛釉を掛けることにより、鮮やかな橙色の軟らかい釉調となります。柳と河井寛次郎が久留米の陶器商に立ち寄った際、棚の下に埋もれていた鉛釉陶器を見出し、産地の発見に至ったといわれています。

■お問い合わせ先 「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」福岡会場 広報事務局（東映内）担当 太田
E-MAIL / mit_ota@toei.co.jp TEL / 092-532-1080 FAX / 092-532-1090
福岡市博物館 学芸課…石井・杉山 TEL 092-845-5011 FAX 092-845-5019